

奥ノ堂池（おくのどういけ）

位置図



諸元

貯水量	160	千m ³
満水面積	5.0	ha
受益面積	35.7	ha
堤高	11.0	m
堤長	175	m

本池は三木町朝倉に位置しています。築造年は不詳ですが、史料に初めて現れるのが江戸時代中期の1755年頃であり、少なくとも260年の歴史があります。

元々、氷上地域では2級河川 新川の支流である熊川の水を利用して農業を行っていましたが、熊川の水は多くないうえに地面深くを切れ込んで流れるため、川の上流で溜めた水を段丘の田畑へ運んで利用していました。本池の築造経緯はこのような、地域特有の農業用水入手の困難さによるものと考えられます。

1817年の史料からは、奥ノ堂池の水は、三木町氷上地区と田中地区の間を流れる吉田川に設けられた屋古戸井関で取水し、約2kmの掛井手を通して池まで届けられていたことが分かります。戦後、1948年に小川下池が吉田川上流に築造されたことと、1950年に導水トンネルが完成したことを契機に、長い掛井手を通すことなく池まで水を引くことができるようになりました。

その後1976年から1980年にかけて、老朽ため池等整備事業により、老朽化していた堤体と取水施設の改修を行いました。

2016年には、南海トラフ等の地震に備えるために堤防の耐震化が必要であると認められたため、2017年から2018年にかけて耐震補強工事を実施し、現在の姿となっています。



奥ノ堂池本堤



堤頂より上流を望む